

大学生の早期教育への関心

渡辺千歳

(お茶の水女子大学)

【問題】

近年様々な分野の幼児教室が増加し、親は1、2歳からけいごことや学習塾を選べる状況にある。本調査では、このような社会環境の中にあってこれから母親となってゆく女子学生が早期教育に対してどのような受け止め方をしているのかを明らかにする。

【方法】

被験者は東京都郊外の女子短期大学学生193名、調査は1991年7月に実施された。質問紙では、就学前家庭教育として、特定の音楽的スキルを身につける、または知的優秀児を育成するという意味で乳幼児もしくは胎児を対象として行われる早期英才教育についての関心を次の4項目で尋ねた。

- (1) 胎児教育の記事や本などに対する現在の関心
 - (2) 将来母親になった時に早期英才教育を紹介する記事などの情報をすすんで収集するという将来における関心
 - (3) 早期英才教育の子どもにとっての望ましさ
 - (4) 英才教育の効果が信用できるようになった時に自分の子どもに受けさせたいと思う度合い
- 各質問ともマグニチュード推定法(0点～10点)で評定を求め、その理由を質問した。

【結果と考察】

各質問項目の平均評定値は、(1) 5.26点、(2) 5.59点、(3) 5.29点、(4) 6.49点であり、いずれも否定的な評価ではなかった。理由の分析から、評定値が0～3点を低群、4～6点を中群、7～10点を高群と分類し質問項目別に比較したのが図1である。

χ^2 検定を行ったところ、(1)と(2)の組を除いた5組において有意差が見出された($p < .01$)。胎児教育への現在の関心と早期英才教育への将来の関心とは分布が類似しており、高群・中群・低群の順で大差がないという関心の深さを示しているが、子どもにとっての望ましさでは中群の突出が、自分の子どもに受けさせるかどうかでは高群の高さと低群の低さが際立つという結果が得られた。

次に各質問の評定値から相関を求めた。胎児教育への現在の関心と子どもにとっての望ましさ($r = 0.367$)、現在の関心と子どもに受けさせるかどうか($r = 0.445$)は低い、将来の関心と子どもに受けさせるかどうか($r = 0.625$)、現在の関心と将来の関心($r = 0.604$)、将来の関心と子どもにとっての望ましさ($r = 0.591$)、子どもにとっての望ましさと子どもに受けさせるかどうか($r = 0.578$)は比較的高い関連が見られた。

現在、胎教などに関心を持っている者は母親になった時も同様に関心を持つ可能性があること、また、母親になった時に高い関心を持つだろうと答えたものは自分の子どもに早期英才教育を受けさせたいと思、子どもにとって望ましいことだと考える傾向があること、一方関心を持たないだろうと答えた者は子どもにとって望ましくないと考え、受けさせたくないとする傾向が見出された。

平均的に見れば、今回は早期英才教育に対してやや肯定的という結果が得られた。

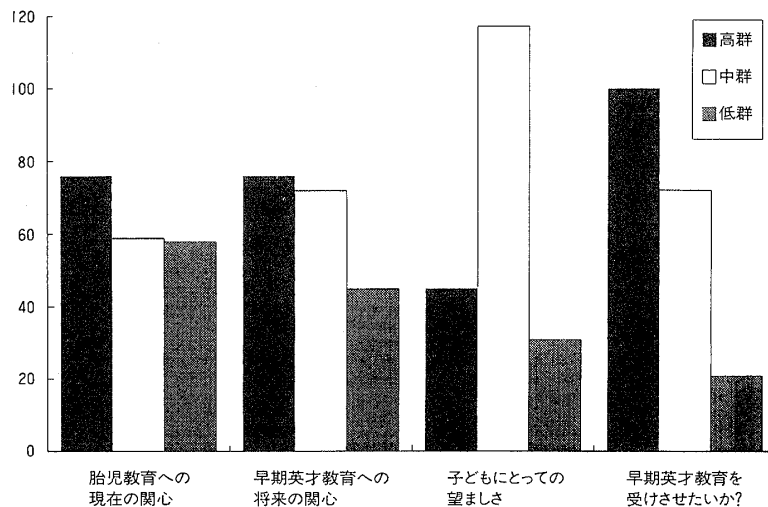


図1 質問別比較(人数)